

2014 年度「教養特別講義 2」について

佐藤 克志

「教養特別講義 2」は日本女子大学に入学した全学生が履修する必修科目として、2 年次以上の学生を対象に開講されています。その原点は本学創立者成瀬仁蔵の「実践倫理」であることはあらためて説明する必要はないと思っています。創立者が「実践倫理」で取り上げた内容は多岐にわたり、女子を「人として、婦人（女性）として、国民（社会人・国際人）として教育する」という建学精神に基づく「教え」が実践されました。

現在開講されている教養特別講義 2 ではその「教え」を基盤とし、かつ 2009 年（平成 21 年）に見直された基本方針「専門分野の学問研究に立ち向うにあたって、常に広い視野と倫理性に基づいた高い識見をもって、人類の未来に創造的に自己実現を果たすことができる人材を養成するとともに、現代を生きる女性のキャリアを十分に伸ばす」に基づき講演テーマ、講演者の選定が行われています。

講演テーマは「女性のこころとからだ（対象学年：2 年～）」、「現代文化のなかの女性（2 年～）」、「女性と職業（2 年～）」、「家族と女性の生き方（3 年～）」、「女性と社会参加（3 年～）」、「女性と世界（3 年～）」の 6 分野です。また、講演者の選出も例年同様、2013 年の教養特別講義 2 委員会委員と学生委員、そして現代女性キャリア研究所が推薦する候補者の中から選出・交渉しました。

講師候補者との交渉は例年難航しておりましたが、今年度の講師依頼からその最初のお願いは学長名で行うとなりました。そのおかげで例年と比べかなり早い段階で講師を決定することができました。関係者に感謝いたします。

今年度の講師も、医師、女性キャリア問題をフィールドとする大学教授、社会学者、ノンフィクション作家、ワークライフバランス実践スペシャリスト、高齢社会問題に関わる国際組織関係者、国際協力の実践者、活版技師、映像翻訳会社代表など多様な方々にお引き受け頂きました。講師の中には本学の卒業生が多く含まれています。学生の皆さんにはこのような方々の講演を聴く機会を生かして多くを学んで欲しいと切に願っています。

現在の教養特別講義 2 は 2009 年度から見直された方針に従って特に大きな問題もなく進められていますが、教養特別講義 2 委員会では「2021 年のキャンパス一体化に向けて運営方法などの検討が必要になってくるのではないか」といった意見も出されています。本格的な議論はこれからです。

（さとう かつし 家政学部住居学科准教授・教養特別講義 2 委員会委員長）